

# 碧南市公共施設カルテ

調査年度

令和7年度

施設名	消防団第1分団					
従たる施設の場合、主たる施設名 -						
大分類	行政系施設	中分類	消防施設	施設番号		
所管部局	危機管理課					
1 土地データ						
所在地 (小学校地区)	碧南市 鶴見町1丁目96番地 ( 新川小学校区 )		敷地面積 312 m <sup>2</sup>	うち借地面積 - m <sup>2</sup>		
2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)						
構成棟	予備隊詰所・車庫、詰所・作業室、車庫、車庫(増築部分)					
複合・併設施設	-					
建築年度	昭和45～平成19年度	経過年数	18～55年	総取得費		
建物構造	鉄骨造	延床面積	134 m <sup>2</sup>	うち借用面積 - m <sup>2</sup>		
階数(地上)	2階	階数(地下)	-階	避難所指定		
3 管理運営データ						
利用状況※1	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均利用者数		
	人	人	人	-人		
施設コスト※2 (R4～R6年度) (ファシリティコスト)	収入	内訳	金額(円)	支 出	内訳	金額(円)
		利用料等	-		人件費	-
		国費	-		修繕料	41,067
		県費	-		火災保険料	2,929
		その他	-		維持管理委託料	-
		市費(一般財源)	403,415		敷地借上料	-
	①維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	合計	403,415		工事請負費	-
		施設外観			その他維持費	-
					小計	43,996
					②運営コスト	人件費
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3	延床面積1m <sup>2</sup> 当たりの施設コスト※4				
		-円/人	3,011円/m <sup>2</sup>			
	利用者1人当たりの負担額※5	市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6				
		-円/人	6円/人			
	特記事項					

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。  
市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

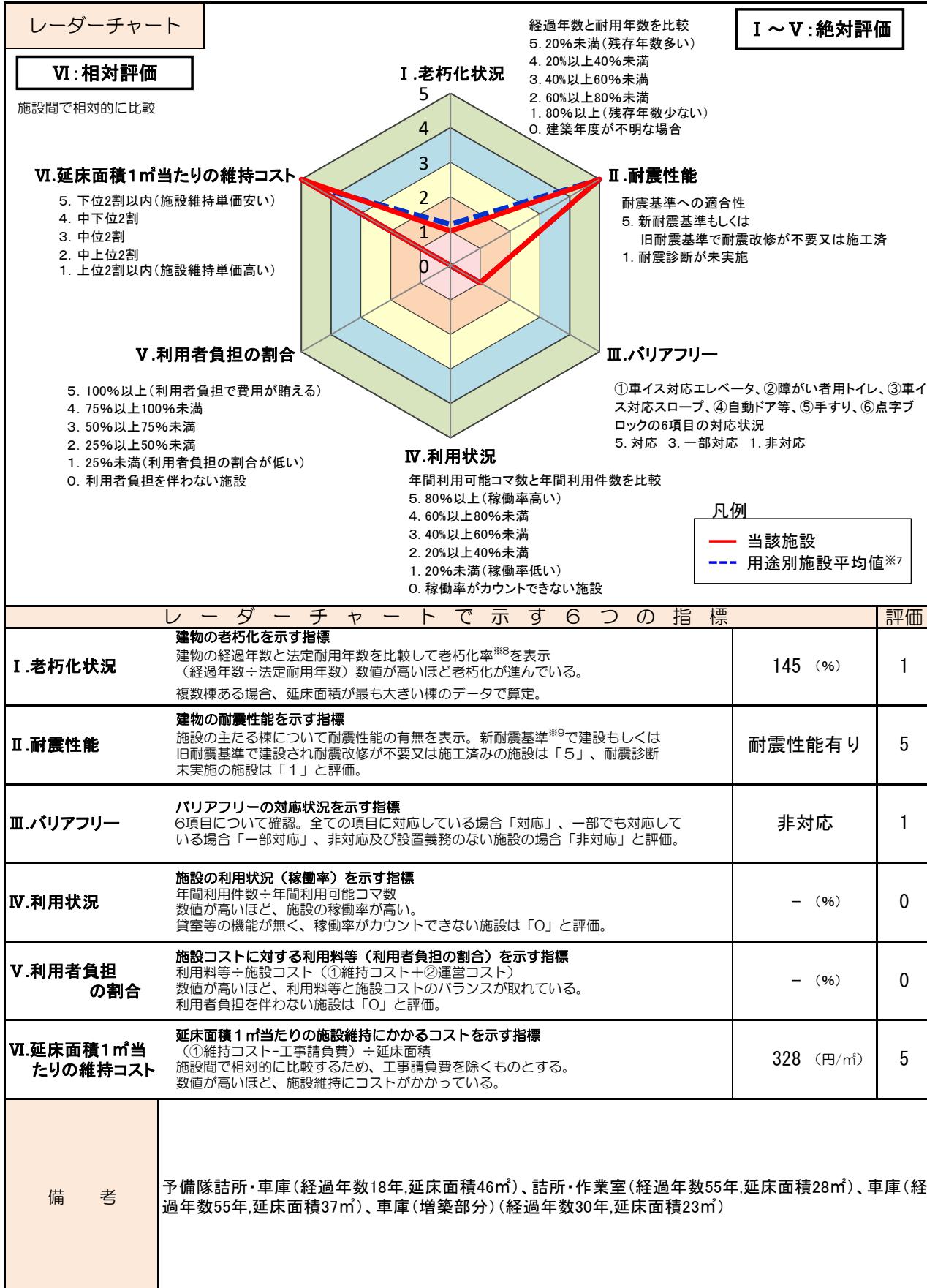
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1m<sup>2</sup>当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(令和7年4月1日現在の72,111人)

#### 4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。

## 碧南市公共施設カルテ

調査年度

令和7年度

施設名	消防団第2分団			
従たる施設の場合、主たる施設名	-			
大分類	行政系施設	中分類	消防施設	施設番号
				79
所管部局	危機管理課			
1 土地データ				
所在地 (小学校地区)	碧南市 浜田町1丁目141番地 ( 大浜小学校区 )			敷地面積 377 m <sup>2</sup> うち借地面積 - m <sup>2</sup>
2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)				
構成棟	予備隊詰所、分団詰所・車庫			
複合・併設施設	-			
建築年度	昭和55～平成20年度	経過年数	17～45年	総取得費 -千円
建物構造	鉄骨造	延床面積	127 m <sup>2</sup>	うち借用面積 - m <sup>2</sup>
階数(地上)	2階	階数(地下)	-階	避難所指定 指定無し
3 管理運営データ				
利用状況※1	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均利用者数 -人
	人	人	人	直営
施設コスト※2 (R4～R6年度) (ファシリティコスト)	内訳		金額(円)	内訳
	収入		利用料等	- 人件費
	入		国費	- 修繕料
	内訳		県費	- 火災保険料 2,897
	内訳		その他	- 維持管理委託料
	内訳		市費(一般財源)	324,448 敷地借上料
	内訳		合計	324,448 工事請負費
	内訳			- その他維持費
	内訳			小計 2,897 人件費
	内訳			- 修繕料
①維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	支		火災保険料	2,897
	内訳		維持管理委託料	-
	内訳		敷地借上料	-
	内訳		工事請負費	-
	内訳		その他維持費	-
施設外観	支出		小計	2,897 人件費
	内訳		内訳	- 光熱水費 303,921
	内訳		内訳	- その他委託料
	内訳		内訳	17,630 その他運営費(事業費)
	内訳		内訳	321,551 小計
内訳		内訳	内訳	合計(①+②) 324,448
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3		延床面積1m <sup>2</sup> 当たりの施設コスト※4	
	- 円/人		2,555 円/m <sup>2</sup>	
	利用者1人当たりの負担額※5		市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6	
	- 円/人		4 円/人	
特記事項				

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。  
市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

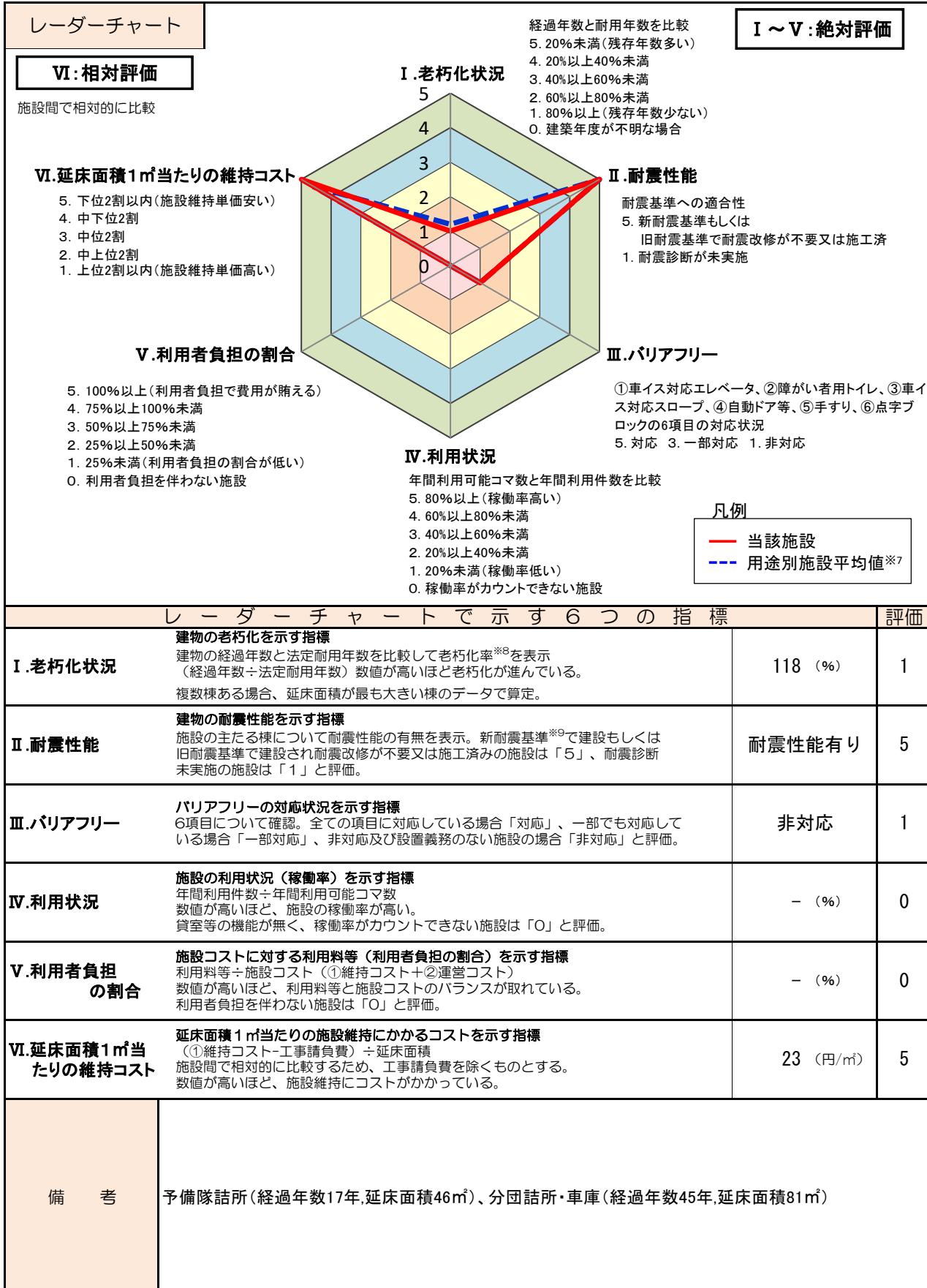
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1m<sup>2</sup>当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(令和7年4月1日現在の72,111人)

#### 4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。

# 碧南市公共施設カルテ

調査年度

令和7年度

施設名	消防団第3分団				
従たる施設の場合、主たる施設名	-				
大分類	行政系施設	中分類	消防施設	施設番号	
所管部局	危機管理課				
<b>1 土地データ</b>					
所在地 (小学校地区)	碧南市 棚尾本町2丁目3番地 ( 棚尾小学校区 )		敷地面積 うち借地面積	295 m <sup>2</sup> - m <sup>2</sup>	
<b>2 建物データ</b> (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)					
構成棟	分団詰所・車庫、車庫(増築部分)、予備隊詰所・車庫				
複合・併設施設	-				
建築年度	昭和50～平成19年度	経過年数	18～50年	総取得費 - 千円	
建物構造	鉄骨造	延床面積	149 m <sup>2</sup>	うち借用面積 - m <sup>2</sup>	
階数(地上)	2階	階数(地下)	-階	避難所指定 指定無し	
<b>3 管理運営データ</b>					
利用状況 <sup>※1</sup>	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均利用者数 -人	
	人	人	人	直営	
施設コスト <sup>※2</sup> (R4～R6年度) (ファシリティコスト)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
	収入	利用料等	-	支出	人件費
		国費	-		修繕料
		県費	-		火災保険料
		その他	-	①維持コスト	維持管理委託料
		市費(一般財源)	391,889		敷地借上料
		合計	391,889		工事請負費
		施設外観			
		①維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費			
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト <sup>※3</sup>	延床面積1m <sup>2</sup> 当たりの施設コスト <sup>※4</sup>			
	-円/人	2,630円/m <sup>2</sup>			
	利用者1人当たりの負担額 <sup>※5</sup>	市費に対する住民1人当たりの負担相当額 <sup>※6</sup>			
	-円/人	5円/人			
特記事項					

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。  
市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

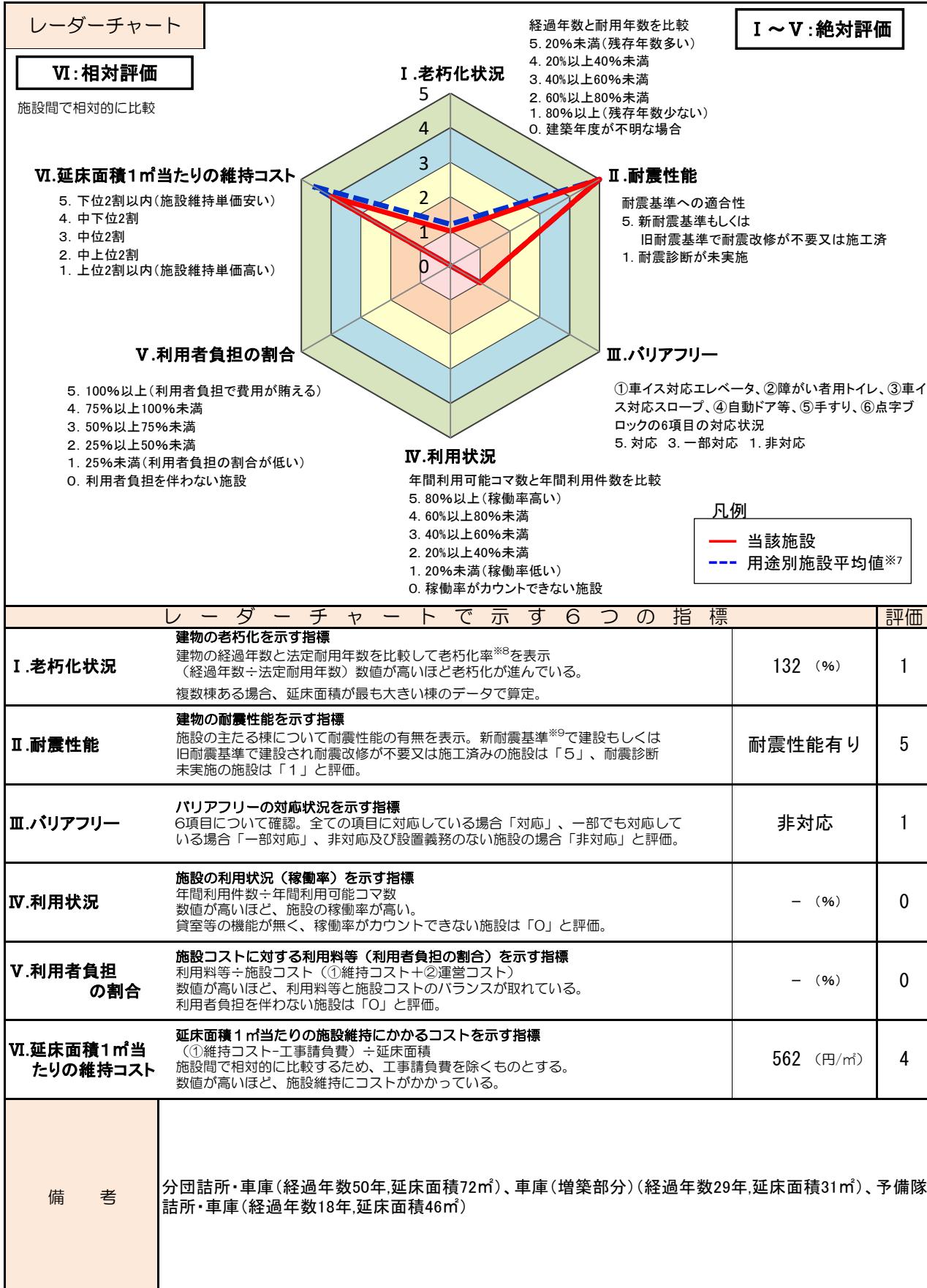
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1m<sup>2</sup>当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(令和7年4月1日現在の72,111人)

#### 4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。

# 碧南市公共施設カルテ

調査年度

令和7年度

施設名	消防団第5分団		
従たる施設の場合、主たる施設名	-		

大分類	行政系施設	中分類	消防施設	施設番号	81
-----	-------	-----	------	------	----

所管部局	危機管理課
------	-------

## 1 土地データ

所在地 (小学校地区)	碧南市 照光町5丁目5番地 (鷺塚小学校区)	敷地面積 うち借地面積	2,409 m <sup>2</sup> - m <sup>2</sup>
----------------	---------------------------	----------------	--

## 2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)

構成棟	予備隊詰所・車庫、分団詰所・車庫				
複合・併設施設	-				
建築年度	平成11～平成20年度	経過年数	17～26年	総取得費	38,110千円
建物構造	鉄骨造	延床面積	143 m <sup>2</sup>	うち借用面積	- m <sup>2</sup>
階数(地上)	2階	階数(地下)	-階	避難所指定	指定無し

## 3 管理運営データ

利用状況※1	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均利用者数	管理形態
	人	人	人	-人	直営
施設コスト※2 (R4～R6年度) (ファシリティコスト)	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	
収入	利用料等	-	人件費	-	
	国費	-	修繕料	-	
	県費	-	火災保険料	7,598	
	その他	-	維持管理委託料	-	
	市費(一般財源)	314,848	敷地借上料	-	
	合計	314,848	工事請負費	-	
①維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	施設外観		その他維持費	-	
			小計	7,598	
			支出		
			①維持コスト		
			人件費	-	
			光熱水費	287,969	
			その他委託料	-	
			その他運営費(事業費)	19,281	
			小計	307,250	
			合計(①+②)	314,848	
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3		延床面積1m <sup>2</sup> 当たりの施設コスト※4		
	-円/人		2,202円/m <sup>2</sup>		
	利用者1人当たりの負担額※5		市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6		
	-円/人		4円/人		
特記事項					

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。  
市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

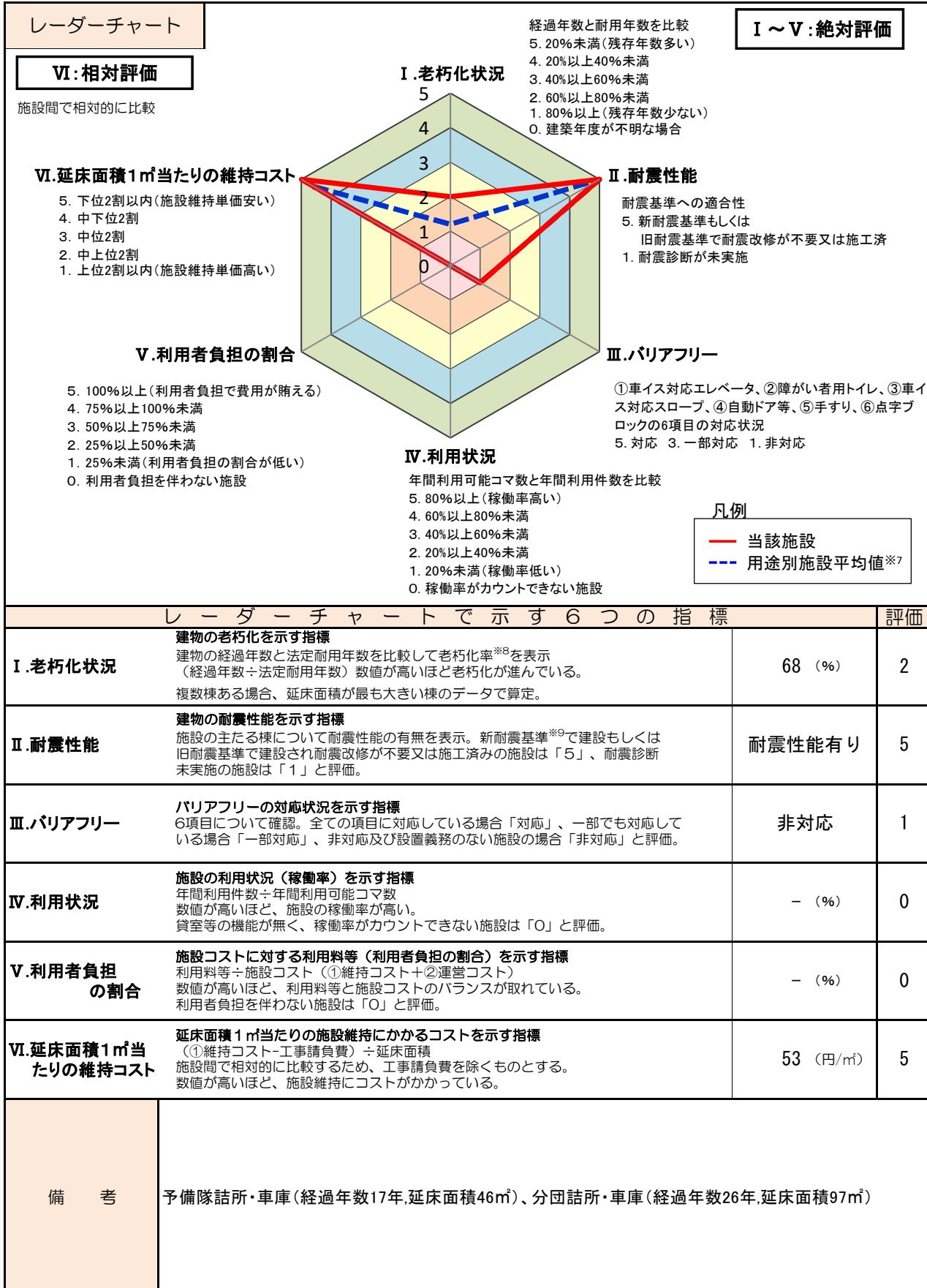
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1m<sup>2</sup>当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(令和7年4月1日現在の72,111人)

#### 4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。

# 碧南市公共施設カルテ

調査年度

令和7年度

施設名	消防団第6分団						
従たる施設の場合、主たる施設名							
大分類	行政系施設	中分類	消防施設	施設番号			
所管部局	危機管理課						
1 土地データ							
所在地 (小学校地区)	碧南市 三度山町2丁目27番地 ( 西端小学校区 )		敷地面積 うち借地面積	884 m <sup>2</sup> - m <sup>2</sup>			
2 建物データ (複数棟ある場合の建物構造は、延床面積が最も大きい棟のデータ。階数は最も高い棟のデータ。)							
構成棟	分団詰所・車庫、予備隊詰所・車庫						
複合・併設施設	-						
建築年度	平成4～平成21年度	経過年数	16～33年	総取得費			
建物構造	鉄骨造	延床面積	136 m <sup>2</sup>	うち借用面積 - m <sup>2</sup>			
階数(地上)	2階	階数(地下)	-階	避難所指定			
3 管理運営データ							
利用状況※1	令和4年度	令和5年度	令和6年度	平均利用者数			
	人	人	人	人			
施設コスト※2 (R4～R6年度) (ファシリティコスト)	収入	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)		
		利用料等	-	人件費	-		
		国費	-	修繕料	181,133		
		県費	-	火災保険料	5,749		
		その他	-	維持管理委託料	-		
		市費(一般財源)	404,351	敷地借上料	-		
	合計	404,351	工事請負費	-			
	①維持コスト 建物を良好に保つために要する経費 + ②運営コスト 公共サービスを提供するために要する経費	施設外観 	合計	186,882	その他維持費	-	
			支	小計	186,882	人件費	-
			②運営コスト	小計	217,469	光熱水費	198,869
合計(①+②)			404,351	その他委託料	-		
コスト状況	利用者1人当たりの施設コスト※3	延床面積1m <sup>2</sup> 当たりの施設コスト※4					
	-円/人	2,973円/m <sup>2</sup>					
	利用者1人当たりの負担額※5	市費に対する住民1人当たりの負担相当額※6					
	-円/人	6円/人					
特記事項							

※1 利用状況：人数は施設の年間延利用人数。学校・幼稚園・保育園・児童クラブ・にじの学園・碧南ふれあい作業所は在籍人数。  
市営住宅は入居戸数で記載。

※2 施設コストの収入・収支の各内訳は、3箇年の平均値。また施設コストの収入・収支の各計は、その平均値を合計しているため、年度毎の各計から算定した平均値とは異なる場合がある。

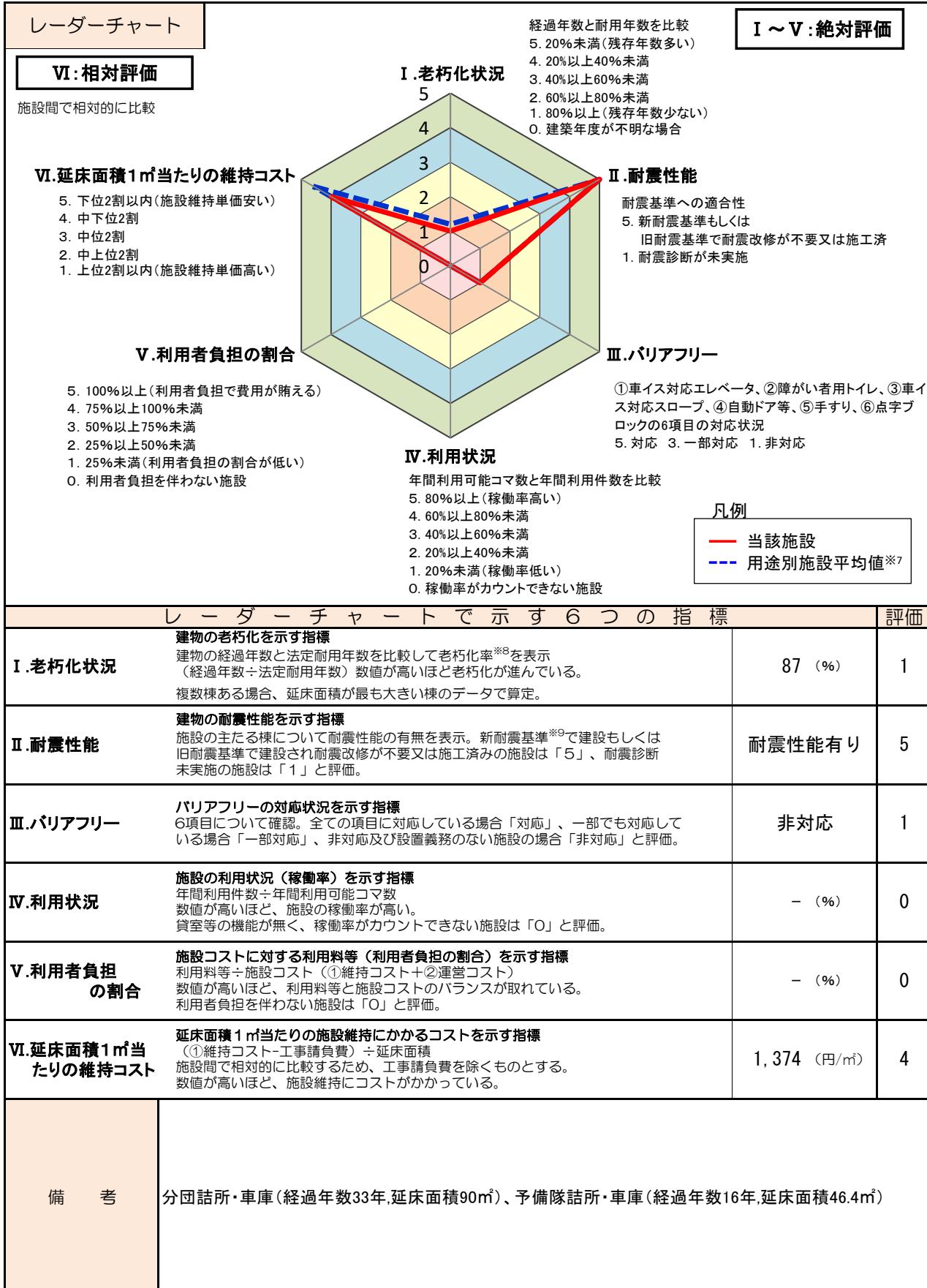
※3 利用者1人当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷平均利用者数

※4 延床面積1m<sup>2</sup>当たりの施設コスト：施設コスト(①維持コスト+②運営コスト)÷延床面積

※5 利用者1人当たりの負担額：収入の利用料等÷平均利用者数

※6 市費に対する住民1人当たりの負担相当額：収入の市費(一般財源)÷人口(令和7年4月1日現在の72,111人)

#### 4 データ分析



※7 用途別施設平均値：施設類型の中分類を基本とし、学校については小中学校別に分類したもの。

※8 老朽化率：建設からの経過年数を法定耐用年数(固定資産の減価償却費を算出するために税法で定められた耐用年数)で除した数。

※9 新耐震基準：昭和56年6月の建築基準法改正以降に建設された建物の耐震基準(マグニチュード8以上の大地震に対する耐震性が確保されている)のこと。改正以前の基準の建物は「旧耐震建築物」と呼ばれる。